

獲される狩猟期間であっても、60%以上の個体が生き延びていた可能性が明らかとなっている。また、狩猟者数の減少と高齢化が全国的に進行していることを考えると、本種の個体数管理がいかに困難であるか想像できる。

(3)被害を受けない作物への転換

江戸時代の焼き畑などでは、イノシシが嫌う有芒品種（ゆうぼうひんしゅ・芒（のぎ）の長い品種）のイネやヒエを選んで栽培していたことが報告されている（矢ヶ崎2001）。こうした穀物やお茶、タバコなどイノシシが出没しても被害を受けにくい作物や林地へ転換する方法も被害対策として考えられる。

(4)被害が出る地域からの撤退

現在の島根県の山間部はこの方法を強いられているといえる。一方で、圃場整備などを行う際、被害を受けやすい農地を被害が出にくい場所に移動するといった手段は、有効な対策の一つである。

**5** 理想的なイノシシ被害対策

イノシシ被害対策では、まず「物

理的進入防止柵の設置」をし、その外側で「個体数管理」を行うのが理想である。この際、最も重要なことは効果的な進入防止柵の設置で、そのためには物理的侵入防止柵の効果である、(1)視覚的遮断と、(2)精神的遮断を活かすことが大切である。

(1)視覚的遮断

イノシシはトタン等の障害物を飛び越える際、必ず侵入先を目視で確認することが知られている。そのため、進入防止柵の効果を高めるには耕作地がイノシシから見えないようにすることが重要である。

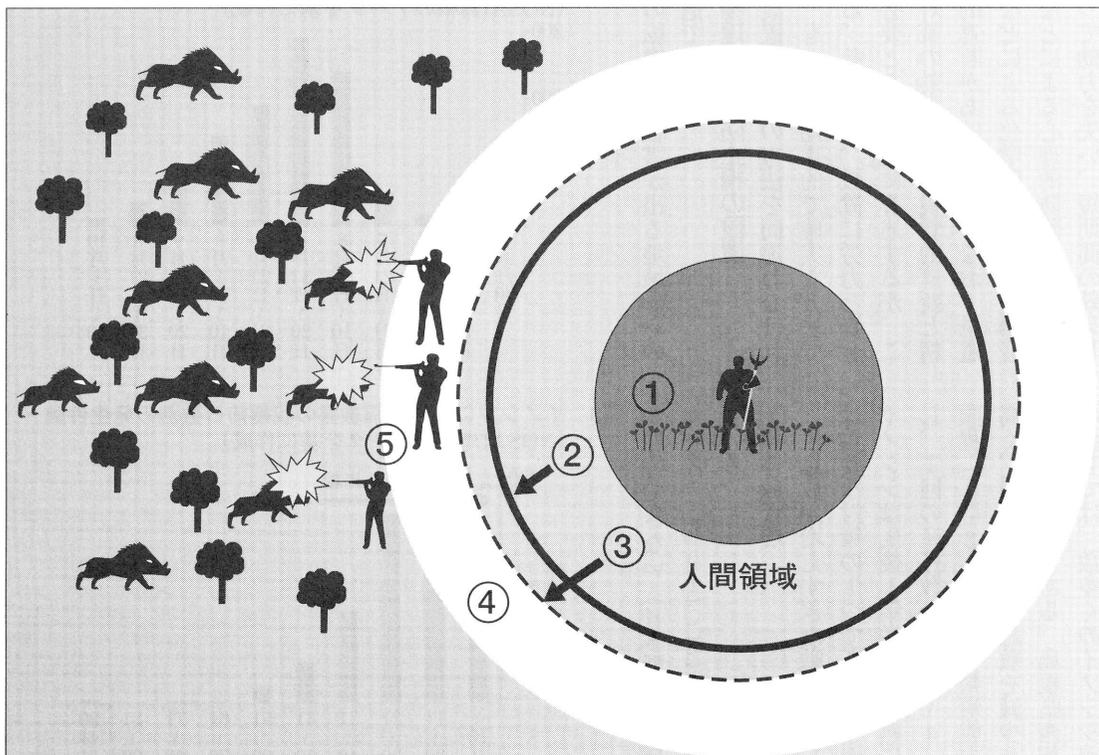
(2)精神的遮断

イノシシは警戒心が非常に強いので、耕作地に対する恐怖心を植え付けることで、耕作地への接近回数を減らすことが可能である。例えば電気柵による感電の痛みにより、本種の恐怖心を高めることができる。また、物理的侵入防止柵ではないが、耕作地周辺（侵入防止柵の外側）の草刈りにより、本種の隠れ場所をなくすことも恐怖心を高める環境作りとなる。

(3)右記2条件の継続

イノシシは警戒心が強い一方で、

図4 理想的なイノシシ被害対策の模式図（詳細は本文P167参照）



①耕作地、②侵入防止柵、③電気柵、④耕作地周辺の草刈り、⑤森林で個体数調整

<引用文献>

- Debernardi, P., E. Macchi, A. Perrone & F. Silvano (1995) Distribution of wild boar (*Sus scrofa*) in Piedmont and Aosta valley (NW Italy). *Journal of Mountain Ecology*, 3:141-144.
- 江口祐輔 (2001) イノシシの行動と能力を知る—現代の攻防最前線。「イノシシと人間」, pp.171-199, 古今書院, 406p, 東京.
- Erkinaro, E., K. Heikura, E. Lindgren & S. Sulkava (1982) Occurrence and spread of the wild boar (*Sus scrofa*) in eastern Fennoscandia. *Memoranda Societas Fauna et Flora Fennica*, 58:39-47.
- 神崎伸夫・大東伊藤絵理子 (1997) 近・現代の日本におけるイノシシ猟及びイノシシ肉の商品化の変遷. *野生生物保護*, 2: 169-183.
- 小寺祐二 (2001) 「鳥根県石見地方の中山間地域におけるニホンイノシシの保護管理に関する研究」. 東京農工大学大学院博士論文, 98p.
- 小寺祐二 (2002) イノシシとの共存を考える. *月刊NOSAI*, 54:16-24.
- 小寺祐二・神崎伸夫・金子雄司・常田邦彦 (2001) 鳥根県石見地方におけるニホンイノシシの環境選択. *野生生物保護*, 6:119-129.
- 日本野生生物研究センター (1991) 「平成2年度鳥獣害性対策調査『獣類(イノシシ)調査』報告書」. 野生生物研究センター, 108p, 東京.
- Nores, C., F. Gonzalez & P. Garcia (1995) Wild boar distribution trends in the last two centuries: an example in northern Spain. *Journal of Mountain Ecology*, 3:137-140.
- Peracino, V. & B. Bassano (1995) The wild boar (*Sus scrofa*) in the Gran Paradiso National Park (Italy) : presence and distribution. *Journal of Mountain Ecology*, 3:145-146.
- Saez-Royuela, C. & J. L. Telleria (1986) The increased population of the wild boar (*Sus scrofa* L.) in Europe. *Mammal Review*, 16:97-101.
- 鳥根県農林水産部森林整備課 (1997) 「鳥根県におけるイノシシに関する調査(Ⅰ)—生息、被害および対策の実態—」. 鳥根県農林水産部森林整備課, 36p, 松江.
- 鳥根木炭史編集委員会 (1982) 「鳥根の木炭産業史」. 鳥根木炭協会, 735p, 松江.
- 高橋春成 (1995) 「野生動物と野生化家畜」. 大明堂, 309p, 東京.
- 常田邦彦・丸山直樹 (1980) イノシシの地理的分布とその要因. 「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(哺乳類) 全国版(その2)」, pp.97-120, 環境庁, 176p, 東京.
- 矢ヶ崎孝雄 (2001) 猪垣にみるイノシシとの攻防—近世日本における諸相. 「イノシシと人間」, pp.122-170, 古今書院, 406p, 東京.

非常に賢く、ひとたび安全を確認すると大胆な行動をとる。どのような対策を施しても被害を受ける耕作地は、イノシシに安全と思われる可能性はある。また、こうした知識は親から子に伝わるため、先述の2つの効果を可能な限り恒常的に行うことが求められる。

まず、耕作地(①)の周囲にトンネル等の物理的侵入防止柵を設置して視覚的に遮断する(②)。さらに電気柵(③)や、耕作地周辺の草刈り(④)によって精神的遮断を行う。そして耕作地周辺の森林で個体数調整(⑤)する。被害対策では、被害が激化する以前の段階で、いかに理想の形に近づけるかが重要である。こうした方法では、甚大な経費と労力が

かかるため、農家個人での実施は困難であろう。また、被害防除に成功したとしても、本種による被害を受けやすい中山間地域の農業が抱える経済的な競争力の弱さや、高齢化などの問題が解決されるわけではない。こうした対策の実施にあたっては、農業集落が丸となって将来を考え、土地利用の見直しをも含めた議論を行う必要があるであろう。

図4に、イノシシ被害対策の理想モデルを示した。

テープで捕殺

## BIG金竜

引出し簡単  
スライド式

新製品

巾10cm・長さ40cm

スリッパス/コナジラミ/ハモグリ

### 桃竜 / 青竜 / 金竜

丸善薬品産業株式会社

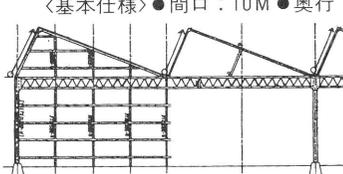
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-4-2

☎ 03-3256-5561 神田東洋ビル

## 丸善FMキャタピラハウス

低コスト・片屋根全面換気・明るく広い間口

〈基本仕様〉●間口：10M●奥行：3Mピッチ●柱高：3M



木酢液(pH3.5)・くん炭(pH6.5)

製造器 クンネンキ

### 燻燃器